

京都市市民参加推進フォーラム 令和2年度第1回「まちづくりの活性化」検討部会 摘録

■開催日時：令和2年7月30日（木） 午後1時00分～午後3時00分

■開催場所：職員会館かもがわ2階 和室中広間

■議題：

- (1) 第3期「京都市市民参加推進計画」の策定について
- (2) 「市民意見を聴く場」の開催について

■報告事項：

なし

■公開・非公開の別：公開

■出席者：市民参加推進フォーラム委員6名
(内田委員, 篠原委員, 森川委員, 森本委員)
(Zoom参加：荒木委員, 金田委員)

■オブザーバー参加者<市民協働ファシリテーター(市職員)>：1名

■傍聴者：1名

■特記事項：

動画共有サイトYouTube（ユーチューブ）を利用し、後日、音声配信を実施する。
Zoomを用いたオンライン参加と併用して開催した。

【議事内容】

1 開 会

2 部会長挨拶

<森川部会長>

事務局から議題と本日の流れについて説明をお願いします。

<事務局>

(議題の説明, 資料確認, 時間配分について説明)

3 議題

議題 (1) 第3期「京都市市民参加推進計画」の策定について

<森川部会長>

事務局から資料の説明をお願いします。

<事務局>

(資料1「第3期「京都市市民参加推進計画」の施策(案)」, 資料2「部会ワークシート(提言書)」説明)

<森川部会長>

本日議論する内容について, 何か質問があればお願いしたい。

<篠原委員>

本日のゴールは何か。どこまで議論できれば良いのか。

<森川部会長>

ゴールは, 次期計画の内容を深めていくことである。委員の方には, 各自の市民参加・まちづくりについての問題意識等を議論していただき, 事務局がその内容を次期計画に反映し, その内容を委員が確認する進め方を想定している。

<金田委員>

(施策案 10) 大学との連携は重要であり, これからも必要なことであるが, まだ一部の大学しかできていないのではないかと。自身の活動に照らし合わせると, 「助成金の活用」や「地域活動との連携」はできているが, 大学全体での共有・展開はできていない。具体的な施策・アイデアまで提示できると良い。

<金田委員>

(施策案 11) 多様な団体・組織・大学が互いに知り合い, 認め合い, 協働するための場が必要ではないかと。出会い, つながるための機会・場を具体的に提案できると良いのではないかと。

<金田委員>

(施策案 12) 行政から市民へのサポートとは何か。具体的に見えない。情報発信や財源支援, 活動の立ち上げ支援などは既にあるが, これまでやってきたことが何か, 次も同じことをするのか, 今後の展開が見えない。行政から市民へのサポート内容をもう少し明確に描けるものがあると良いのではないかと。

<荒木委員>

市民のまちづくり活動の範囲が広い。京都市が目指すまちづくり活動の姿とは何か。

<事務局>

大きな目標としては、「参加と協働により、豊かで活力のある地域社会の実現」であり、第2期計画（改定版）に記載されている地域社会の姿のような、自主的な市民のまちづくり活動が活発化されている状態である。

<森川部会長>

計画全体としては抽象的な内容ではあるが、基本方針や施策に記載の個別の内容を見ていただくと、もう少し具体的に理解していただけると思う。

<荒木委員>

現状、理想に対して、まちづくり活動で不十分なことは何か。

<事務局>

色々とあるが、例えば、高齢化によるまちづくりの担い手の減少がある。

<荒木委員>

多くの市民がまちづくり活動に関わっているという実感を持つことを重視しているのではないかと受け止めた。行政の予算が長期的には減少していく中で、行政が大変だから市民の力を借りるという発想になってはいないか。

<森川部会長>

昨年までの議論では、京都市における市民と行政、市民同士の協働による課題解決は、まだ伸び代があるという話があった。行政は市民参加の方法を、形式上整えられてきているが、形だけのものも多い。そこで、協働の基本となる対話を増やす、協働による課題解決を進化させる、若者の参加の裾野を広げるといった話が出てきた。それを受けて、重視する3つの視点が出てきている。

<荒木委員>

コレクティブインパクトの起きる土壌を作っていこうという話として理解した。

<内田座長>

地域ごとに少しずつ違う課題があるので、地域に合った課題解決をできるように展開できれば、市民がまちづくりに参加しながら安心して暮らせるようになる。

<篠原委員>

ウィズコロナの状況下では、そもそも集まることが難しい。ウィズコロナ向けの具体的な対策まで計画に盛り込むべきなのか分からない。現在の計画や施策案の内容に対して、大きな違和感などはない。

<森川部会長>

地域単位で関わる自身の活動において、総会時期の活動が書面開催にするなど、大変だった。地域活動が停滞しているところが多い。停滞期間が長くなると、活動しなくても何とかなると考え、地域活動自体を止めてしまうところも出てくるのではないかと。

<市民協働ファシリテーター(市職員)>

みんなごとのまちづくり推進事業を担当している。現在、お宝バンク事業を中心として、登録いただいた団体に、お金を出すのではなく、広報やコーディネートやマッチングといった支援を行っている。分かりやすい支援ではないかもしれないが、連携や繋がりや創出、コーディネートなどが大事な支援ではないかと考えている。次の展開としては、企業や多様なセクターに参画いただけるような視点で活動している。

<金田委員>

これからの協働における行政と市民の関係性を考えたときに、お金の支援だけではない関係はあると思う。マッチングやコーディネートという言葉だけでも市民には難しいと思うが、市民にも理解していただける支援に具体化していくことが大事ではないかと。

<森川部会長>

市民同士の協働も難しい。NPO同士なら協働する機会もあるが、地域の自治組織とNPOが協働するとなると難しくなる。例えば、祇園祭の旦那衆など、いくつものレイヤーで組織があるが、相互に繋がって連携活動することはないし、繋げる組織も存在しない。

<森本委員>

昔からある組織が繋がらないのは、繋がるメリットが見えないからではないかと。

<内田座長>

市民がどう実感するかが大事という意見があったが、計画で実施する内容は考えているが、評価する視点が抜けているのではないかと。活動の成果を見える化して周知することで、繋がるメリットを理解してもらえらると思う。また、成果を正しく評価できていない活動もあるので、どれぐらい凄い活動なのか意味付けを行い、発信することで活動支援になるかもしれない。

<森本委員>

私でもやればできると思えるぐらいのハードルの高さだと良いと思う。

<荒木委員>

コロナの影響により、店舗の廃業が起きたり、経営が苦しくなる企業が増えると思う。京都の文化活動は、地域企業がスポンサーとなり支えていることが多いので、企業が予算を減らして活動資金が集まらないといった問題に直面することになると思う。ハード面のまちづくりに、市民がどのように関われるかも大きな問題ではないか。

<森川部会長>

倒産ではないが、撤退や休業する店舗は増えてきている。どの程度の規模になるかは、まだこれから分かってくることだと思う。以前のようなインバウンド頼みのまちづくりには戻らないと思うが、経済的な再生と、これからの京都のまちづくりの両方を、今のタイミングから考えていく必要があると思う。計画に掲載するかは別として、皆がどう思っているかの意見交換はしたいと思う。

<荒木委員>

市民に意見を募るだけでなく、まちづくりに関わる団体、例えば商店連盟や住民福祉協議会の方などに、現状についてヒアリングやインタビューを行い、その内容を基に検討しても良いのではないか。

<篠原委員>

防犯や防災などの活動は、地域活動への参加ハードルが低いのではないか。例えば、犬の散歩や花を植えながら、地域に目を配ることで、まちの安全に繋がっていることがある。活動している人たちは、地域の役に立っているとか凄いことをしていると意識していないが、その活動は大事だと思う。表彰など見える化をすることで、地域の役に立っていることを実感してもらうことは必要だと思う。

町内会の諸活動が必要ないという話がより進むかもしれないが、水害などが起きた場合に、地域活動の必要性を強く感じるのではないか。宮城県の丸森町の水害では、近所の繋がりがあったからこそ、近所の助け合いで命が助かるケースが存在した。危機を想定した上で、具体的に繋がりの重要性を議論してみると良いと思う。

議題 (2) 「市民意見を聴く場」の開催について

<森川部会長>

それでは、議題 2 「市民意見を聴く場」の開催についてに移りたい。事務局から説明をお願いする。

<事務局>

(資料3「部会ワークシート(市民意見を聴く場)」説明)

<森川部会長>

第1回会議の意見を基に修正いただいているが、まず開催方法(オンラインでの複数回のグループディスカッション)について、ご意見をいただきたい。

<荒木委員>

参加者が一定集まる見込みがあれば良いのではないか。フォーラム委員が分かれて参加するのであれば、持続可能性のテーマがある会に参加したい。

<事務局>

テーマ内容は決めている訳ではないので、テーマ内容も議論いただきたい。

<森川部会長>

人数はどれくらいを想定しているのか。制限なしか。

<事務局>

テーマによって人数は変わってくると思う。少人数でのヒアリング実施も可能である。

<森川部会長>

話し易い4、5人であれば、オンラインではなく、リアルに集まることも可能なのか。

<事務局>

リアルでの開催も可能である。

<市民協働ファシリテーター(市職員)>

1団体を対象とすると、その団体に固有の実情を深く聴くことになるかもしれない。複数団体を対象とすることで、聴く内容の抽象度が変わると思う。

<森川部会長>

開催方法は、事務局案をベースに検討する。次に、どんなテーマにするか、どんなゲストを呼ぶか、具体的に何を問いかけるかについて、ご意見をいただきたい。

<内田座長>

まちづくり活動へのコロナの影響を、1つのテーマとして設定しても良いのではないか。

<森川部会長>

テーマとして設定しても良いかもしれない。所属団体で、「コロナ禍でのコミュニティ活動」をテーマに、4つの地域団体で座談会を実施する予定である。景観や住環境に関連する活動団体の方をお呼びすることはできるかもしれない。

<森本委員>

ヒアリング又はグループディスカッションでは、傍聴を可能にするのか。継続的になる活動に興味のある方が、気軽に聴けるようにしても良いと思う。

<事務局>

フォーラムの議事内容や資料は公開しているので、ヒアリング又はグループディスカッションの結果を公開して見ていただける。

<市民協働ファシリテーター(市職員)>

ヒアリング自体を傍聴可能にすると、傍聴者を意識するので、深い話がしにくくなるデメリットもあるかもしれない。

<事務局>

ヒアリング又はグループディスカッションの議論内容も含めて、計画やハンドブックに反映していく形でも、市民に還元していきたい。

<篠原委員>

傍聴を可能にするかは、テーマ内容にも依存するので、テーマ内容を先に議論して決めれば良いと思う。

<森川部会長>

複数回開催するので、開催テーマごとに傍聴の可否を変えても良いと思う。まずは、テーマ内容を先に決めたいと思う。

<篠原委員>

ウィズコロナは避けて通れないことだとは思いますが、コロナに特化したテーマを設定するべきなのか、それともメインのテーマにコロナの視点を入れて設定した方が、意見が聴き易くなり良いのか。どちらの方が良いのか。

<森川部会長>

シンプルにヒアリングに協力してくださる参加者は良いが、自分の声がどのように反映

されるのか期待して来られる参加者もいると思う。その期待は個人差があるので、ゲストの呼び方が難しい。

フォーラムとしては、市民と行政又は市民同士の協働関係が進み、まちづくりが活性化するために、リアルな現場からの意見や情報をいただいて、次期計画に反映させることを目標としている。

<市民協働ファシリテーター(市職員)>

参加者の期待などを考えすぎると、聴きたいことが聴けなくなることも考えられるので、今回は現場の状況やご意見を、シンプルにお聴きしたいと説明しても良いかもしれない。

<事務局>

ゲストの市民の方について、お宝バンクの取組提案者は、京都市から声かけできる。

<篠原委員>

お宝バンクの取組提案者に対して、コロナ禍における活動状況や課題などを聴くと良いのではないか。例えば、読み聞かせのようなオンライン化し易い取組と、火の用心のようなオンライン化が難しい取組の両方の取組提案者に来ていただき、ご意見を聴いてみたい。

<森川部会長>

部会委員及び事務局と継続的に相談して、テーマを決めていきたい。

<篠原委員>

欠席委員もいるので、テーマだけでも委員同士でアイデア出ししてみてもどうか。お呼びするゲストの想定も各委員にあると思う。1時間程度のZoom会議を実施する、又はSlack上でテーマ出しをしても良いと思う。

<森川部会長>

Zoom会議とSlack上でのテーマ出しをする会を設定したい。

以上で本日の議題は終了となる。皆さん、どうもありがとうございました。

4 閉会

<事務局>

本日も闊達な御意見、ありがとうございました。まちづくり活動の成果に対する実感を市民の方に持っていただくことは、改めて重要だと思いました。引き続き、市民意見を聴く場の開催に向けて、活発な議論をお願いしたい。

以上